

中国日本商会

みつま

三瀧先生の 「ナルホド中国、ナットク中国」



三瀧コラム 中国「津津有味」-46

コロナの蔓延はまだ出口が見えませんが、当初の中国政府の取り組みを検証するため、私が他で発表した内容をダイジェストにしてご紹介します。

3月13日、香港の「サウスチャイナ・モーニング・ポスト」が「最初の患者は2019年11月17日に武漢市で確認されていた」と報じました。地元当局の発表では12月12日が最初でしたから、1カ月近く遡ります。中国当局は1月3日に「武漢市で原因不明の肺炎患者が44名発生している」、1月9日に「患者から新型コロナウイルス発見」と発表、同日、WHOもその可能性を認めました。1月7日には香港政府が武漢を訪れた30人ほどに発熱・肺炎の症状が発生していることを発表しましたが、この時点では、日本での感染者の存在は確認されていませんでした。1月9日、CCTVが、政府調査団によって同ウイルスが発見されたことを報じ、翌日から日本の新聞も重大ニュースとして取り上げ始めました。この時点で、「SARSでは？」と書き込みをした8人が武漢の公安から処罰されたことは、当時の政府の姿勢を反映しています。香港政府はこの時点で感染症の警戒を「嚴重」レベルに引き上げ、高速鉄道の乗客に体温検査を実施しました。1月16日、日本国内初の感染者が神奈川県で発見されましたが、人民日報には関連記事が全く掲載されていませんでした。

1月21日、人民日報は1面右トップに「習近平、新型コロナウイルスによる肺炎蔓延に対し重要な指示を出し、人民の生命と健康を第一に、断固として蔓延を食い止めるよう強調」との記事を掲載、「最近、武漢市など多くの地区で新型コロナウイルスによる肺炎が蔓延していることが確認された」と報じ、6面では、「武漢ではパンデミック状態になり、人から人への感染も確認されたが、十分な監視・隔離制度が確立されており、17年前のような社会的影響や経済的損害は起こさない」というコメントも紹介しました。

人民日報のその後の関連記事掲載数（筆者独自の計算）は、1/21～26日：一日5件弱、27～31日：10～20件、2/1～4日：約30件、5～7日：40～60件と急増しています。26日までの記事数が少ない理由は1月25日の春節。政治的にも経済的にも春節の主要行事を先に済ませたいということで、一面トップが新型コロナ記事になったのは翌1月26日、その日からは常に一面に関連記事が載り、2面は連日全面が関連記事で埋め尽くされました。また、春節休暇期間終了翌日の2月1日から、国民に呼びかける報道が急激に増えています。その日から一面と2面は全て関連記事で埋め尽くされ、2月3日から7日までは、20面の半分の10面以上に関連記事が掲載されました。

中国当局が1月12日にコロナウイルス遺伝子の配列について情報を公開したことは、SARSの時に比べると評価できますし、21日には国家衛生健康委員会が新型コロナウイルス

中国日本商会

みつま

三渚先生の 「ナルホド中国、ナットク中国」



を法定伝染病乙類に認定、春節を控えて最大級の防疫体制を指示しました。しかし、武漢の出入りが禁じられたのは23日、その間に多くの人々が武漢から逃げ出し、海外へも避難して感染を拡大させました。1月26日、人民日報は新型コロナウイルスに関する中共中央政治局常務委員会の開催を一面トップで伝え、翌28日に同じく一面トップで習近平総書記の重要指示を掲載、同時に李克強首相の武漢視察が報じられたのでした。